

大阪医科大学学報

第27号 平成8年2月



画題「高原の春」 制作 山田嘉一郎(18期)
100号(162×131) 図書館・本館内会議室展示
寄贈 平成7年3月

◆目

理事長就任にあたって	2
学長年頭所感	3
規則・規程改正	4
附属病院の第2・4土曜日休診	4
月7休制度の実施	4
人事 (採用、退職、昇任、委嘱・解嘱、 留学、海外渡航)	4~6
新任教授紹介	7

次◆

教授候補者の公募について	8
学位記授与	9
教室紹介	11
医学の散歩道	12
海外留学記	14
阪神淡路大震災から1年	15
学内行事	17
会議・行事予定	17

理事長就任にあたって

理事長 田 中 忠 彌



去る12月1日付で、宮崎重前理事長の任期満了に伴い理事長に就任致しました。

現在、私立医科大学は、人口動態の変化と社会の構造的変化に、いかに適応を図り、活力ある高等教育機関として、その役割を果たすべきか、論議されておりますが、国際社会への対応、教育・研究の活性化、急速な科学技術の改善の必要性などの諸問題を解決するためには、膨大な資金と労力が必要であり、深刻な財政問題に直面することが考えられます。

従来、私立医科大学の財政は、学費・国庫助成及び特に大きく医療収入に依存してきましたが、国民の多様な要望と医療環境が厳しくなるなかで、これにどう対応するか、私達の力量が問われることになりました。

また、1975年の私立学校振興助成法の成立によって本格化したかにみえた国庫助成も、1982年からむしろ延びなやみとなり、教育・研究の高度化に伴う経費の増大といったなかで、私立医科大学は新しい収入構造への転換を模索しなければならなくなっており、このような社会に対応できる財政基盤を確立しなければなりません。このためには資金運用の健全化は勿論ですが、資金調達方法そのものを再検討する必要があります。従来の私立大学では、記念事業といった機会に、同窓生の寄附を受けて校地、校舎を拡充するということはありましたが経常的経費の支出のために、恒常的な外部資金を導入する経営努力は少なかったように思われます。

財政的基盤の強化の一手段として認められた収益事業（私立学校法第26条）は、従来大学財政上軽視されてきたといってもよいでしょう。勿論、寄附金等の外部資金の導入を進めるには、税制上の優遇措置が拡充されることが必須の条件であり、各学校法人は協力して改善への運動を継続していかねばなりません。

又、私立大学は、その教育・研究は強い公共性を有しています。したがって、対外的な義務、責任を認識し、象牙の塔の意識に陥らないよう運営に努力しなければなりません。

本学は、創立以来、幾多の困難を克服して、着実に発展してきました。それは大学構成員の皆様の努力の賜物と感謝しております。

今後、未だかつて経験したことのない変動の21世紀を迎えるに当たり、すべての教職員が協力して、大阪医科大学を支え、益々発展させて頂きますよう切望して、就任の挨拶といたします。

年 頭 所 感

学 長 藤 本 守



昨年は阪神大震災で明け、未曾有の円高、地下鉄サリン事件で揺れ、一部の銀行も破産する程の激動の年でありました。震災が我々に与えた大きな教訓の一つに、ボランティア等の民間協力も積極的に加わったことがあり、満1年たった現在は、復興への明るい兆しも感じられる程になっております。

昨今、我が大学の実情を見ると、社会、特に内外の経済状態、大学の評価、学生の質など、大学をとりまく情勢は厳しく、またその変動が実に激しい時期であります。

人事面にあっても、新旧交代の時期を迎え、昨年6月には私が学長に就任し、さらに12月には、本学の「基盤」を確立しようという学内外の世論を反映して、本学卒業生である田中忠彌先生が新理事長に就任され、新しいスタートを切った年でありました。

本年も続々と新旧交代が続きます。希望に胸をふくらます反面、責任感をもって臨まねばならないことを痛感しております。大学と病院の近代化、学科新設への努力、関連病院の開拓と病診連携の必要性など、対処せねばならない問題は山積されているのであります。これら大学が抱える諸問題は、本学の長い歴史に根付いた「苦しみ」も少なくありません。「声にならない苦悩は最も痛ましい」という先人の教え（ジャン・ラシーヌ：1667年）に思いを致し、今日の困難な時期には、「互いの助け合いの心、すなわち人心の和」のボランティア精神で克服すべきであろうと心得ております。このような重大な時期にあって、私は、学長としての責任の重さと使命の大きさを身にしみて感じながら、最も望ましい人間像として「安心して任せられる学長」を模索しております。

私は、大学内の「声なき声」を聞き、「偉大な苦悩」を教訓にして、「立派な大学にすること」を願っております。1996年は十二支ではそのトップに位置する子年であります。本年は本学ならびに皆様にとりましても、子年に相応しいトップの発展を遂げる年として頂きますように念じております。

規則・規程改正

給与規則の一部改正

今般、家族手当の一部支給額が変更となり、それに関連する給与規則の一部が下記のとおり改正されました。

1. 第5条第4号中「2,200円」を「2,800円」に改める。

この改正は満15才に達する日後の最初の4月1日から満22才に達する日以後の最初の3月31日までの間にある扶養家族たる子のある教職員が対象となります。

2. この改正は平成7年4月1日から施行する。

退職金規程の一部改正

今般、同規程中第3条が削除されました。

第3条の条文は次のとおりです。

1. 満10年以上の勤続者にして特に功労のあるものに対しては右基準により算出した金額の五割以内を特別慰労金として支給することができる。

2. この改正は平成8年1月23日から施行する。

月7休制度の実施について

本学では週休2日制について種々各方面で協議してきましたところ、一応の条件が整いましたので、職員に対して来る4月1日から完全週休2日制の試行として月7休制度を実施することになりました。

その実施方法は、原則的には、病院が休診する第2、第4土曜日の2回と第1、第3（第5週がある月は第5週）の中で何れかの土曜日1回、合計3回を休むことにしております。なお、この方法が不可能な勤務の職員は、平等な他の方法により休むことにしております。

附属病院の第2、第4土曜日休診について

月7休制度の実施に伴い本学附属病院では平成8年4月1日から第2、第4土曜日を休診することになりました。皆様方には、何卒よろしくご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

人 事

〔採用〕

助 手	金原 裕則 (泌尿器科学)	7.12.16
〃	鈴木 俊明 (〃)	〃
〃	東 治人 (〃)	〃
〃	亀谷 英輝 (産婦人科学)	8. 1. 1
〃	金 信行 (〃)	〃
短時間雇用職員	半田 暁子 (〃)	8. 1.16
助 手	折野 一郎 (〃)	8. 2. 1

〔退職〕

事務員	橋内 直子 (病院事務部 医事第二課)	7.11.15
看護婦	稲垣 江美 (病院看護部)	7.11.30
短時間雇用職員	井上 明美 (〃)	7.12. 1
助 教 授	小寺 邦彦 (生理学Ⅱ)	7.12.31
助 手	黒部 佳子 (薬理学)	〃
〃	野々村安啓 (神経精神医学)	〃
〃	鈴木 佳彦 (産婦人科学)	〃

事務員 丹羽 晶子 (教務課程) 7.12.31
 技術員 山本 純子 (中央検査部) ♪
 ♪ 藤澤 聖 (栄養給食課) ♪
 看護婦 松浦千恵子 (病院看護部) ♪
 ♪ 杉谷ゆうこ () ♪
 ♪ 小路 敬子 () ♪
 ♪ 山田 恭子 () ♪
 助手 藤田 清司 (法医学) 8. 1.15
 ♪ 畠山 和幸 (医化学) 8. 1. 9
 看護婦 岩城 章恵 (病院看護部) 8. 1.31
 助手 高木 伸介 (皮膚科学) ♪
 看護婦 兒玉 初美 (病院看護部) ♪

〔昇任〕

昇任

事務局次長兼 池田 良正 (財務部長兼) 7.11.16
 財務部長 会計課長
 総務部 久保 克己 (総務部庶務) 7.11.16
 企画室長 課長補佐兼
 代理兼 総務部
 庶務課長補佐 企画室長補佐
 図書館 茂幾 周治 (図書館) ♪
 課長代理 課長補佐
 財務部 大槻 哲彦 (財務部經理課) ♪
 經理課長補佐 主任
 病院事務部 堀川 能文 (病院事務部) ♪
 栄養給食課 栄養給食課
 課長補佐 栄養主任
 主任 森本真佐子 (栄養士) ♪
 生理学Ⅱ 窪田 隆裕 (講師) 8. 1. 1
 教授
 生化学領域 吉原 良浩 (講師) 8. 2. 1
 助教授

〔委嘱・解嘱〕

委嘱

学内講師

助手 永田 裕人 (整形外科学) 7.10. 1
 ♪ 土手友太郎 (衛生学) ♪
 ♪ 渡辺 美鈴 () ♪
 ♪ 瀬尾 崇 (神経精神医学) 7.11. 1
 ♪ 高畑 龍一 () ♪
 ♪ 関 庚輝 (内科学Ⅰ) 8. 1. 1

泌尿器科学講座担当教授選考委員会委員

教授 大澤 仲昭 (第1内科学) 7.11. 8
 ♪ 岡島 邦雄 (一般消化器外科学) ♪
 ♪ 佐々木進次郎 (胸部外科学) ♪
 ♪ 清金 公裕 (皮膚科学) ♪
 ♪ 植木 實 (産婦人科学) ♪
 助教授 草壁 秀成 (皮膚科学) ♪
 ♪ 田中 嘉雄 (形成外科学) ♪
 講師 上田 陽彦 (泌尿器科学) ♪
 ♪ 菅澤 淳 (眼科学) ♪
 助手 米林 功二 (皮膚科学) ♪
 ♪ 平井 景 (泌尿器科学) ♪

泌尿器科学講座担当教授選考委員委員長

教授 清金 公裕 (皮膚科学) 7.11.17

同上委員

助教授 磯崎 博司 (一般消化器外科学) 7.12.20

耳鼻咽喉科学講座担当教授選考委員会委員

助教授 古川 哲夫 (口腔外科学) 8. 1.20

附属病院長選挙管理委員会委員

教授 芝山 雄老 (病理学Ⅰ) 8. 1. 9
 ♪ 宮崎 瑞夫 (薬理学) ♪
 助教授 赤尾 幸博 (解剖学Ⅰ) ♪
 講師 織田 行雄 (衛生学) ♪
 助 手 福田 泰樹 (内科学Ⅰ) ♪
 ♪ 田中 英夫 (脳神経外科学) ♪
 病院事務部長 平野 勝 (病院事務部) ♪
 代理 理
 薬務管理課長 竹村喜一郎 (病院薬剤部) ♪
 代 理
 看護副部長 小林千恵子 (病院看護部) ♪
 ♪ 神谷美佐子 () ♪

同上委員長

教授 芝山 雄老 (病理学Ⅰ) 8. 1.18

解嘱

泌尿器科学講座担当教授選考委員会委員

助教授 田中 嘉雄 (形成外科学) 7.12.19

耳鼻咽喉科学講座担当教授選考委員会委員

助教授 高崎 登 (泌尿器科学) 8. 1.19

看護学科設置準備委員会(仮称)委員長

理事 武内 敦郎 7.11.30

看護学科設置準備委員会（仮称）委員

理事	武内 敦郎	7.11.30
教授		
看護専門 学 校 長	小野村敏信	〃
参 与	松村 實	〃
事務局 長	多田 數義	〃
病院看護部長	勢川瑠美子	〃
看護専門学校 教 務 課 長	橋本 豊子	〃

病院西側拡張建築委員会委員長

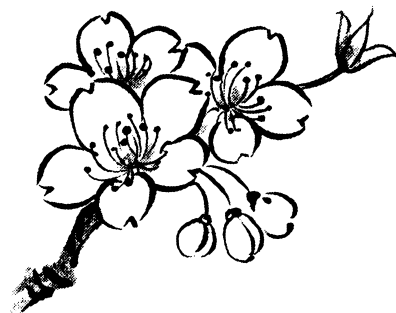
理 事	武内 敦郎	7.11.30
同上委員		
理 事	武内 敦郎	7.11.30
学 長	藤本 守	〃
病 院 長	美濃 眞	〃
副 院 長	堺 俊明	〃
参 与	松村 實	〃
事務局 長	多田 數義	〃
病院事務部長	常川 治男	〃

〔留 学〕

田中 嘉雄（形成外科学）
 オーストラリア（ウーマンズアンドチルド
 レンズ病院）8.1.8～8.7.7
 日本私学振興財団 平成7年度私立大学等経
 常費補助金
 特別補助「高度化推進特別経費」のうち「海
 外派遣交流経費」該当分

〔海外渡航〕

長澤 史朗（脳神経外科学助教授）
 川西 昌浩（ 〃 助 手）
 韓国（ソウル）7.11.1～7.11.3
 河村慧四郎（内科学Ⅲ教授）
 弘田 雄三（ 〃 講師）
 アメリカ（アナハイム）7.11.11～7.11.19
 小野村敏信（整形外科学教授）
 香港 7.11.12～7.11.16
 阿部 宗昭（整形外科学助教授）
 香港 7.11.12～7.11.18
 白井 久也（整形外科学助手）
 香港 7.11.12～7.11.17
 林 泰三（中央検査部・診療教授）
 中国（ハルビン）7.11.26～7.12. 1
 小野村敏信（整形外科学教授）
 アメリカ（レイク・タホ）7.12.1～7.12.5
 植木 實（産婦人科学教授）
 ニューージーランド（オークランド）
 7.12.26～8. 1. 4
 岡島 邦雄（一般・消化器外科学教授）
 オーストラリア 8. 1. 8～8. 1.13
 田中 源重（麻酔科学助手）
 イギリス（プリストル）8. 1.20～8. 1.28
 東 郁郎（眼科学教授）
 アメリカ（ジャクソンビル他）8.1.29～8.2.4
 谷田 泰孝（整形外科学助手）
 メキシコ 8.2.1～8.2.6



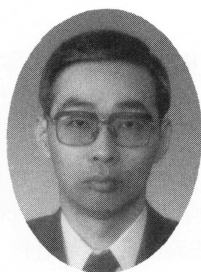
新任教授・紹介

分析と統合の生理学

調和ある教室作り

生理学第二講座

窪田 隆 裕 (46才)



昭和48年3月本学卒業

昭和48年9月本学助手

(生理学)

昭和52年9月～昭和54

年6月米国エール大学

医学部生理学教室へ留

学

昭和54年11月医学博士

昭和55年1月本学同講

師

昭和55年7月～昭和57年4月田附興風会北野
病院内科勤務

昭和57年5月～昭和61年12月中町赤十字病院
内科勤務

昭和62年1月本学講師(生理学)

平成8年1月本学教授就任

平成8年1月1日付けで、生理学第二講座の教授に就任させて頂くことになりました。これも一重に藤本学長をはじめ教授の方々のご支持の賜であり、心から感謝申し上げます。本学の生理学講座は国内外に著名な先生方が担当され、伝統ある講座の一つでありますので、このよき伝統を守り、生理学の教育・研究を一層発展させるべく努力していく所存であります。今後共よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

私は、昭和48年に大阪医科大学を卒業後、同年4月に本学生理学第二講座の教授として赴任された現藤本学長のもとで同年9月に助手となり、生理学について1対1の手厚い指導を受けました。当時の研究のメインテーマは微小イオ

ン電極の開発と細胞内イオン測定でありました。世界に先駆けて電極開発に成功し、その結果、国内外からの研究留学生や見学者が数多くありました。その後も国内外の先生方との交流が続いており、開発した技術を隠すことなく世に広めることの大事さを改めて痛感する次第です。この研究法は、私の専門分野である腎臓のみならず他臓器の研究にも取り入れられ、現在でも種々の研究施設で、この方法による生体下でのイオン動態の研究が行われています。

現在当教室では、腎尿細管イオン輸送に対するホルモンや細胞内セカンドメッセンジャーの研究を行うとともに、培養細胞や単離尿管を用いたパッチクランプ実験を行い、イオンチャネルの研究も行っています。

近年の生理学の研究において時代の風向きは、明らかに分子生物学を主体とした分子・細胞生理学に有利で、近い将来もこの傾向が続くと考えられます。しかし、生理学は“生体の機能”の科学であり、生物学のなかで最も歴史の古い学問の一つとして発展を遂げてきました。そして、生体機能の研究は分析と統合より成り、それは分子レベル、細胞レベル、組織・器官レベル、個体レベルのすべてのレベルの諸機能について、機能を実現する生体過程とそのメカニズムを、物質および構造と関係づけ、定量的に、時間空間的な動的過程として、理解することにあります。この、広大な“分析と統合”の機能の研究こそ生理学の役目であると考えます。

この分析と統合の概念は、若い世代の人達には現代のコンピューター情報社会における情報のデジタル信号を生体における分子に置き換えれば理解しやすいかもしれませんが、非常に難しいことではありますが、分子・細胞レベルの研究にしろ、最終的には人間味のある、温かい学問を目指していきたいと考えております。その気持ちを持ち続けることにより、教室も調和ある協力的な温かいものになっていくことと信じております。今後とも本学および先輩方のご協力、ご指導をお願い申し上げ、私の抱負とご挨拶にさせていただきます。

教授候補者の公募について

平成8年3月31日をもって定年退職されます耳鼻咽喉科学講座担当高橋宏明教授および衛生学・公衆衛生学講座担当吉田康久教授、平成7年9月30日付で退職された泌尿器科学講座担当岩動孝一郎教授の後任教授の選考を行うことになりました。

<耳鼻咽喉科学講座担当教授候補者応募要項>

応募の方法は自薦または他薦によります。
(別紙 本学教授選考規程第6条参照)

- 1) 提出書類 (同封の用紙を使用して下さい)
 - ・履歴書 (様式1)
 - ・臨床・教育・研究歴 (臨床・教育・研究活動の概要および将来の抱負をA4用紙<縦>に横書2000字程度にまとめて下さい)
 - ・研究業績目録 (様式2)
 - ・主要業績 (主要論文5編、別刷各5部) (コピーでも可)
 - ・他薦の場合は推薦書 (様式3) および本人の同意書 (様式随意、A4用紙) を添付して下さい。
- 2) 締切期日 平成7年12月16日 (土) 必着
- 3) 提出先 高槻市大学町2番7号 (〒569)
大阪医科大学総務部庶務課気付
耳鼻咽喉科学講座担当教授選考委員会
(0726-83-1221代)

添付書類 ・本学教授選考規程 (抜粋)
・履歴書 所定形式
・業績目録 所定形式
・推薦書 所定形式

附記: 選考の過程で、選考委員会が応募者の方とお会いする機会を持ちたいと存じます。

<衛生学・公衆衛生学講座担当教授候補者応募要項>

応募の方法は自薦または他薦によります。
(別紙 本学教授選考規程第6条参照)

- 1) 提出書類 (同封の様式に従って下さい)
 - ・履歴書 (様式1)
 - ・教育・研究歴 (教育・研究活動の概要および将来の抱負をA4用紙<縦>に横書2000字程度にまとめて下さい)

- ・研究業績目録 (様式2)
- ・主要業績 (主要論文5編、別刷各5部) (コピーでも可)
- ・他薦の場合は推薦書 (様式3) および本人の同意書 (様式随意、A4用紙) を添付して下さい。

- 2) 締切期日 平成7年12月18日 (月) 必着
- 3) 提出先 高槻市大学町2番7号 (〒569)
大阪医科大学総務部庶務課気付
衛生学・公衆衛生学講座担当教授選考委員会
(0726-83-1221代)

添付書類 ・本学教授選考規程 (抜粋)
・履歴書 所定形式
・業績目録 所定形式
・推薦書 所定形式

附記: 選考の過程で、選考委員会が応募者の方とお会いする機会を持ちたいと存じます。

<泌尿器科学講座担当教授候補者応募要項>

応募の方法は自薦または他薦によります。
(別紙 本学教授選考規程第6条参照)

- 1) 提出書類 (同封の用紙を使用して下さい)
 - ・履歴書 (様式1)
 - ・臨床・教育・研究歴 (臨床・教育・研究活動の概要および将来の抱負をA4用紙<縦>に横書2000字程度にまとめて下さい)
 - ・研究業績目録 (様式2)
 - ・主要業績 (主要論文5編、別刷各5部) (コピーでも可)
 - ・他薦の場合は推薦書 (様式3) および本人の同意書 (様式随意、A4用紙) を添付して下さい。
- 2) 締切期日 平成8年1月20日 (土) 必着
- 3) 提出先 高槻市大学町2番7号 (〒569)

大阪医科大学総務部庶務課気付
泌尿器科学講座担当教授選考委員会
(0726 - 83 - 1221代)

添付書類 ・ 本学教授選考規程 (抜粋)
・ 履 歴 書 所定形式

・ 業績目録 所定形式
・ 推 薦 書 所定形式

附記：選考の過程で、選考委員会が応募者の方
とお会いする機会を持ちたいと存じます。

平成7年度(第2回)学位記授与

今回は23名の申請につき所定の審査が行われました。その結果、平成7年11月22日付をもって、23名全員に対し博士(医学)の学位が授与されました。



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第504号	古 玉 大 介	Lymphocytapheresis in combination with immunosuppressive drugs for refractory myasthenia gravis: two-color flowcytometric analysis of changes in peripheral blood lymphocyte subsets (難治性重症筋無力症に対するリンパ球除去療法の効果と末梢血リンパ球サブセットの変化)
甲第505号	難 波 隆 一 郎	Evaluation of Tl-201 SPECT for monitoring the treatment of pulmonary and mediastinal tumors (肺、縦隔腫瘍の治療効果判定における Tl-201 SPECT の臨床的有用性)
甲第506号	中 野 慎 一	Dual Energy X-ray Absorptiometry (DXA) による放射線治療の胸椎骨塩量に及ぼす影響に関する検討
甲第507号	鈴 本 完 二	Clinical evaluation of fecal lactoferrin and α 1-antitrypsin in pediatric gastrointestinal infections (小児消化管感染症における便中ラクトフェリンおよび α 1-アンチトリプシン排泄量の臨床的検討)
甲第508号	中 川 潤 一	Dynamics of secretory granules in somatotrophs of rats after stimulation with growth hormone-releasing factor: a stereological analysis (成長ホルモン放出刺激因子刺激後のラット GH 細胞における分泌顆粒の動態: 三次元形態計測学的解析)
甲第509号	半 田 齊	Vancomycin および Mitomycin C による Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus (MRSA) の生物学的性状および形態の変化の検討
甲第510号	松 尾 隆 広	Quantification of immunohistochemistry using an image analyzer: correlation to hormone concentrations in pituitary adenomas (画像解析装置を用いた免疫組織化学の定量化: 下垂体腺腫におけるホルモン濃度との相関)

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第511号	永 井 章	Enhancement of damage-specific DNA binding of XPA by interaction with ERCCI DNA repair protein (XPA 蛋白質の修復蛋白質 ERCCI との相互作用による障害部位認識の増強効果)
乙第676号	河 本 政 一	GLUT-1 glucose transporter is localized heterogeneously within the microvessels of the mouse hippocampus (マウス海馬微小血管における GLUT- 1 グルコーストランスポーターの不均一分布について)
乙第677号	中 村 積 方	ヒト免疫不全ウイルス 1 型逆転写酵素と核酸の複合体形成に及ぼす無機塩類の影響
乙第678号	小 嶋 博 司	頸椎後縦靱帯骨化の進展に関与する全身のおよび局所的因子について
乙第679号	大日向 由 光	Influence of hypotension on cochlear blood flow in polycythemic condition (多血状態における低血圧の蝸牛血流に対する影響)
乙第680号	山 口 ひとみ	エンドセリン投与の家兎視神経乳頭イオン環境に及ぼす影響
乙第681号	渡 辺 一 男	Soluble interleukin-2 receptor level in serum of children with insulin-dependent diabetes mellitus compared with that in disease with activated immune system (小児のインスリン依存性糖尿病と自己免疫疾患などにおける可溶性インターロイキン-2 受容体値の検討)
乙第682号	酒 井 裕	HIV-1 感染細胞における pol 遺伝子産物の局在とその意義
乙第683号	山 口 仁	Abdominal adiposity with respect to the proportion of intraabdominal visceral fat to extraabdominal fat (V/S ratio) in Japanese childhood obesity (小児肥満における腹腔内脂肪蓄積の病態的意義について)
乙第684号	関 庚 輝	静肺圧量関係から肺内結合組織の量の変化を評価する —理論モデルの構築—
乙第685号	佐 伯 彰 夫	Systolic flow augmentation in hearts ejecting into a model of stiff aging vasculature —influence on myocardial perfusion-demand balance— (加齢に伴う大動脈硬化モデルにおける収縮期冠血流量増加の意義：心筋代謝需要供給バランスに及ぼす影響)
乙第686号	金 本 裕 吉	乳癌における PCNA 発現に関する免疫組織化学的研究
乙第687号	三 好 和 裕	胃癌の進展と間質反応に関する研究 —スキルス胃癌間質形成に及ぼす TGF- β の役割—
乙第688号	稲 山 靖 弘	A positive association between a DNA sequence variant in the serotonin 2A receptor gene and schizophrenia (セロトニン 2 A 受容体遺伝子多型と精神分裂病との有意な相関)
乙第689号	井 上 隆	悪性腫瘍における脊椎転移病巣 —骨シンチグラムに基づく統計学的検討—
乙第690号	秋 元 寛	実験的エンドトキシン血症における肝障害発生機序に関する研究 —肝細胞内カルシウム動態とカルシウム拮抗剤の肝保護効果について—

教 室 紹 介

一般・消化器外科学教室

癌主体に治療・研究

常に鋭気を養い挑戦

モットー

【type oriented surgery】

大阪医科大学一般・消化器外科学教室は本学の外科再編成により昭和51年4月（1976年）に発足したが、初代教授の板谷博之先生は昭和52年4月に御逝去になり、その後昭和53年8月、岡島邦雄先生が第2代教授に就任し、現在に至っている。平成7年12月現在の教室員の構成は岡島邦雄教授、磯崎博司助教授（胃・肝胆膵、昭49年卒）、竹田 幹講師（血管、昭54年卒）、森田真照講師（肝胆膵、昭54年卒）、梁 壽男学内講師（乳腺、昭55年卒）、助手11名、専攻医40名、研修医7名、非常勤講師10名である。

当科の病床数は約90床であり、取り扱う疾患は頸部（甲状腺）、乳腺、食道、胃、小腸・大腸、肝・胆・膵、小児外科、末梢血管と広範囲で、日常診療は多忙である。教室の週間予定は手術日は月、水、金の週3日で、年間手術件数は約780件である。火、木は朝7時30分から術前カンファレンス、9時から教授回診、水は朝7時30分よりスタッフ会議、毎月1回夕方から深夜まで研究室カンファレンスを行っている。病棟では講師クラスが班長となり、3～5人1班の4班による診療を行っている。

手術例は癌が多い。平成7年の症例は、胃悪性腫瘍は150例で、その半数は早期胃癌である。平成7年12月15日岡島教授就任以来の胃癌にたいする胃切除例数が2000例に達した。早期胃癌の適応症例には内視鏡的切除や縮小手術（迷走神経温存手術や幽門輪温存手術）を行い、一方、進行胃癌に対しては、根治性を高めるため、大動脈周囲リンパ節郭清や左上腹部内臓全摘術などの超拡大術式を行っている。食道癌は17例で、頸部食道癌の再建には血管外科チームの協力に

よる遊離空腸移植を行っている。その他、肝癌32例、胆・膵の悪性腫瘍40例、胆石症80例（腹腔鏡下胆嚢摘出術が多い）、乳癌76例、大腸癌91例である。血管外科は動脈14例、静脈67例である。一般に癌の手術には胃癌にたいして行っているごとくそれぞれの症例の進行度に応じた縮小あるいは拡大手術を適用する type oriented surgery を行っている。



現在の研究課題は①消化器癌の発育・進展に関する分子生物学的研究、②肝臓の虚血再灌流障害に対する肝保護に関する研究、③手術侵襲と生体反応に関する研究などである。

現在までに教室が担当した主な学会、研究会は第44回胃癌研究会（昭60）、第48回日本臨床外科医学会総会（昭61）、第6回日本小腸移植研究会（平5）、第42回日本消化器外科学会総会（平5）などである。

医局行事としては毎年1月2日教授宅での新年会、2月のスキー旅行、6月の医局旅行、8月の納涼会、12月の忘年会の他、年2回のゴルフ大会、関西医大との野球対抗戦などがあり大いに鋭気を養っている。

（文責 磯崎）

医学の散歩道

—「アンジオテンシン、キマーゼ、
吉備団子」—

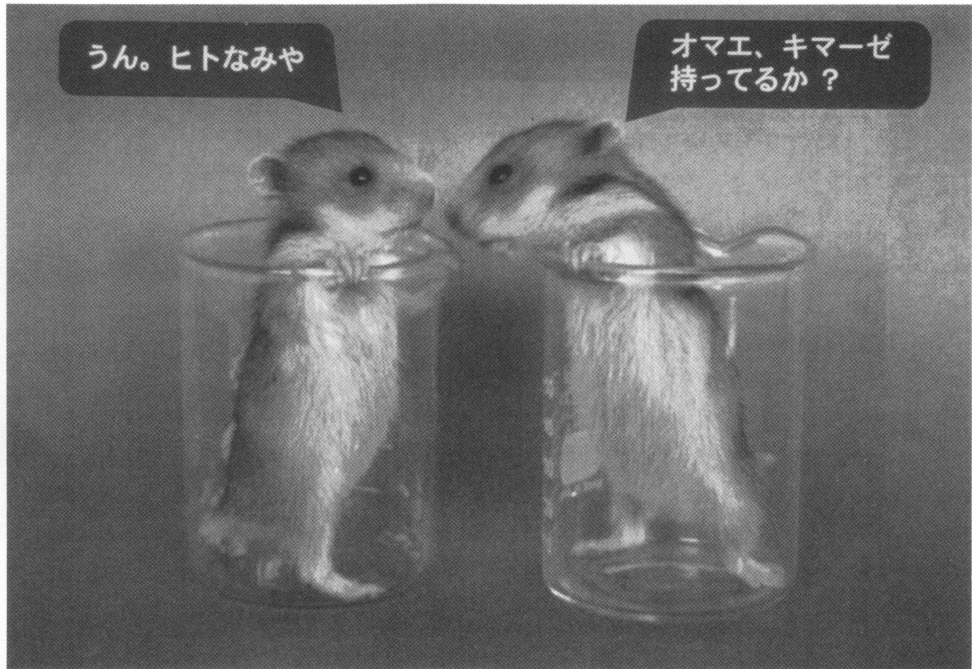
薬理学教授 宮崎 瑞夫

昨シーズンの終わりのことであるが、偶々TVのチャンネルをひねったら、ヤクルトの野村監督がリーグ優勝のインタビューを受けているところが映った。アナウンサーの「監督、優勝の今のお気持ちは？」との問いに、「財を残すのは下、仕事を残すのは中、ヒトを残すのは上」ということばの意味が今回の優勝でようやく解った気がします。」という意味の答えをしていたのが非常に印象に残りました。誰がそんなことを言ったのか、どこに書いてあるのかは知らないが、これは野球人だけではなく大学人、いや大学人なればこそ噛みしめるべきフレーズであると。その後しゃべらねばならぬ機会に当分これを拝借しようと思ひ、実際、何度かえらそうに使わせてもらいました。「現世では教師家業をしていました」と答えたら、閻魔大王には「それでは、おまえはどんな弟子を育てたのか」と詰問されるはずである。そこで舌を抜かれて針の山へでは先生として現世で君臨していたのに、何とも様にならぬではないか、とかなんとか。

ところが、このことば、つい最近になって必ずしも正論とは違ふぞ、と思ひ始めたのです。そのきっかけというのは、卑近な話になりますが、本学の教員の職制の中に新しい職制が数年前から導入されはじめ、その名称と解釈が時に議論を招いており、つい最近にもそんな議論の機会があったからです。これは誤解を生じない方向に話し合いが進んでいるようなので、ここで先走ってこれが悪いの、良いのと言うのではないことをお断りしておきますが、一つに、診療教授という役職をめぐっての議論があります。この役職の規定には、「臨床医学教育と診療の充実に」となっています。ところが、大学というのは教育及び研究の場であり、それが医学部である故に、臨床が被さってくるわけです。だ

から、「大阪医大に研究を含めない職を置いていいのだろうか？」また、「そんな職を命ずるのは、大学人に対して失礼ではないのか？」という疑問が沸きます。他方、「イヤイヤそうではない。大学の附属病院だからこそ、どの病院よりも優れた臨床家を抱えるべきである」という意見もあります。もっともこれはある一面からだけのことで、それはそれとして、このようなことを考えていたら、野村監督の話に疑問がふと顔をのぞかせたと云うわけです。「あれはなんで、上、中、下、でなければならぬだろう」ということなのです。大学人の職務が教育、研究、診療という複数を備えるものであれば、カネとシゴトとヒトは三つとも備えるべきではないか。カネがなければシゴトも出来ない。シゴトが出来なかつたらヒトも育たない。逆にたどると、ヒトが育たないということは、シゴトもないし、カネも無いということになるのではないかと。あれは野球界の名将の言であるから感服するのであって、簡単にヒトのフレーズを借りてきて偉そうにしゃべるとすぐ化けの皮がはげれることを思い知ったしだいです。従って、昨秋、この話を小生からもっともらしく聞かされた方々には深謝致します。

「散歩道」もなにか迷路に入ってきたようなので、本道に戻らねばなりません。私どもの薬理学教室で、今力を注いでいる仕事の一つにキマーゼという酵素の研究があります。私は、以前より血管壁で作られるアンジオテンシンの役割を探っているのですが、一緒にやっていた助教教授であった奥西秀樹君（現島根医科大学教授）が1984年に、イヌの血管壁にレニン—アンジオテンシン系と全く無関係に、アンジオテンシンを作る機能をもった酵素が存在することをイヌで世界ではじめて見つけました。それまで、アンジオテンシンはレニン—アンジオテンシン系が造るものと信じて疑わなかつたので、見つけた我々も驚きました。その後、この酵素の同定を試みてきたのですが、扱い辛く苦戦していました。ところが、1990年にクリーブランドクリニックから、ヒトの心臓に全く新発見のアンジオテンシン産生酵素があり、それは既に肥満細胞中の酵素として知られているキマーゼと全く同じアミノ酸配列であったという報告が出まし



た。そこでこの心臓の酵素と、我々の血管酵素と比較しますと、その酵素の性質はそっくりでした。その頃は、我々にとって分子生物学の手法はまだ高嶺の華であったのですが、その後、現講師の塩田直孝君が大学院時代に頑張ってくれたおかげで、今では簡単に、といえは塩田君は拗ねるでしょうが、我々もアミノ酸配列を決められるようになりました。残念ながら酵素の同定では、先を越されてしまいましたので、我々としては、この酵素の病態生理学的役割、一体この酵素は何のためにアンジオテンシンを作るのかという点については、よそに負けないように頑張っているのです。我々は、イヌ以外にサルにもこの酵素が働いていることを見つけました。ところが、実験の一番手軽なラットやウサギでは、この酵素は全く働いていないことも見つけました。ユニークな酵素を見つけて得意になったのはいいのですが、生体実験が大変です。イヌでは全てに大がかりです。一つの仕事が、20頭以上のイヌを群分けして、数か月飼育というスケールになります。それも必ずしも成功するわけではないので、この数年冷や汗もので実験を進めてきました。しかし、おかげで、機能面での成果はよそ様をかなり引き離していると自負しています。というよりも、よそが大型動

物ではそう簡単に追試をしてくれないのです。別に他人のことはどうでもいいのですが、もっと使いやすい動物が我々も欲しいのです。あれこれ当たったところ、ハムスターがヒトと同じ、アンジオテンシンを作る機能を備えたキマーゼを持っていることが解りました。今度はすぐにこの酵素を精製し、更にクローニングも済ませました。これを記念して作ったテレカの絵をお見せしましょう（写真）。これは大学院生の高井真司君の仕事です。しかも、ハムスターには先天的に心筋症になる種がありますが、その心臓でキマーゼが悪戯をしているらしいことも解ってきたので、あわよくば心筋症の治療薬に迫るのではと勇み立っています。

ところで、私にはどうしてもキマーゼを持っていてそうで調べてみたい動物がもう一ついます。それはキジ（雉）です。何故ならイヌもサルもヒト型のキマーゼをもっているのですから、キジが持っていてくれたら、キマーゼの種差の原因は、吉備団子であるという新学説が打ち立てられます。「あゝ、ハムスターは桃太郎が分けてあげていたときに、一つ地面に落とされたのを喰ってしまったんですよ」「エエッ、ハムスターは鬼が島には住んでいなかったという文献を読んだことがあるって？」

海外留学記

第2内科学学内講師

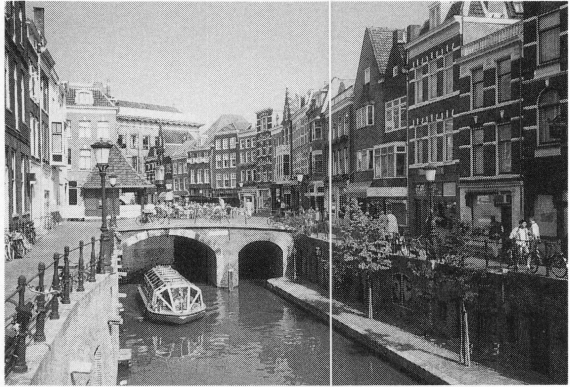
島本史夫

平成7年8月から10月までオランダ、ユトレヒト大学消化器科 Prof. Smout のもとに短期留学致しました。勝教授からオランダ留学の話をお聞きした時、日本の近代医学発展の源となった「蘭学」の国が急に身近なものに感じられました。アメリカ、ミシガン大学消化器内科に2年間留学して以来10年目の海外留学であり、多少の緊張と期待を抱いて出発致しました。オランダはアメリカとは異なり、根底に日本と相通じるものがあるようで親しみを覚える国でした。

蘭学の国に親しみ感じつつ…

胃電図の活用を探究

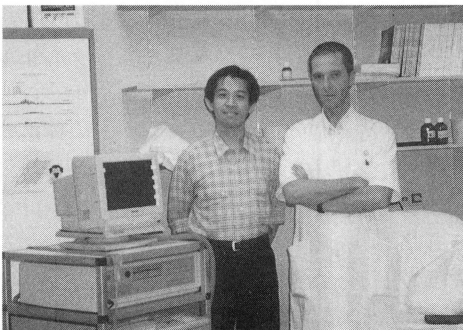
それは狭い国土にひしめく車と自転車、正確な電車の発着、律儀で、古いもの、伝統を固持する国民性などによるのかもしれませんが。ユトレヒトは人口23万人のオランダ第4の都会で、中世にはユトレヒト同盟の盟主として繁栄した古都です。中心にはオランダ最古のゴシック様式教会である大聖堂 (Domkerk; 1254年) が建ち、オランダで一番高い鐘楼 (Domtoren; 1321年) は町のどこからでも見えるシンボルとなっています。465段の階段を息を切らしながら登って上から見おろすユトレヒトの町は、16、7世紀に建てられた古いレンガ造りの建物が整然と並び、縦横に走る運河の水面に美しい町並みが影を落としていました。ユトレヒト大学は1636



ユトレヒトの町並と運河を往く観光船

年に創設され、三世半以上の長い歴史を誇っていますが、大学自体は6年前に郊外に移転し近代的な総合大学に生まれかわっています。外国からの留学生も多く (但し日本人は私以外に一人もいませんでした)、International Relations Office の世話により安心して快適な生活が保証されていました。

今回の留学の目的は Electrogastrography (胃電図: 体表面電極誘導胃電気活動記録法による非侵襲的胃運動機能検査法) を習得するためでした。胃には心臓と同じように pace maker が存在し、周期的 (周波数約 3 cpm) な電位変化が伝播していることが知られています。しかし胃の活動電位を記録するには電位が小さく、心臓などの他部位からの電気信号の混入により技術的に困難でした。近年のコンピュータの進歩により、胃からの電気信号のみを取り出し解析することが可能となり、胃電図は臨床応用の段階にまで達してきました。Prof. Smout は独自の胃電図解析プログラムを開発させて臨床研究に望んでおり、糖尿病性神経障害患者では胃の運動機能が低下することを胃活動電位の変化から証明しています。私は喫煙時の胃電図変化を調べることにより喫煙が胃運動を低下させるという結果を得ています。このように胃電図検査は侵襲が少なく容易に消化管の運動機能を評価できる方法として消化管疾患の病態解明に



Prof. Smout と筆者 (ユトレヒト大学にて)

役立つものと期待しています。今後は、消化管を内視鏡などによる形態的検査とともに、運動

機能面からも把握して、より質の高い治療に結びつける努力をしたいと思っております。

阪神・淡路大震災から1年

《「阪神・淡路大震災に学ぶ」発刊》

未曾有の大被害を出した阪神・淡路大震災から1年が経過致しました。本学では震災1周年を前に『阪神・淡路大震災に学ぶ』—災害医療、災害医学教育、研究、啓発活動—を堺、大槻両教授の編集の下に刊行し、関係省庁および国公私立医科大学（医学部）等関係機関に送付ならびに役員、教職員、学生、非常勤講師他関係各位に配布しました。

《医療・救援活動に兵庫県から感謝状》

本学では震災直後から、傷病患者の受け入れや医療救援班チームの派遣等、救援活動を行ってきました。今般、これらの活動に対して、貝原兵庫県知事より下記内容の感謝状が送付されてまいりました。



《被災した職員の体験レポート》

今回の震災で自宅が全半壊の被害を受けた教職員から、この1年を振り返っての報告がありましたのでここに紹介します。

(次ページに関連記事)

What the hell is this?!

第2病理学講師 前田 環

平常の時間が陥没してしまい、亀裂の時間の中をさまよい歩くような一年が経過しました。1月13日、高槻の仮住まいから改修なった西宮の弊宅に帰りました。16日、久々の阪急神戸線での通勤は、震災前と比較してすいています。被災地を離れた人々の多かったことを実感させられました。車窓に映るいまお残る無惨な崩壊ビルが、あの日の5時46分を呼び出します。

それはまさに動転一瞬、飛び出した暁の夜空に電磁波の閃光が走り、繰り返す大地の振動と連動して、平成の悪夢が現出しました。恐怖は余震の度に増幅され、眠れぬ日々が連続しました。夫はアメリカ中部の出身。それまでに地震の体験はありません。「What the hell is this?!」と叫んだ声が忘れられません。見舞いの第一報がアメリカの義姉からだったことで、世界の情報網の発達に驚かされました。2日後、留学していた大学の指導教授から赤十字を通しての安否確認がきました。あの時は国際的であった震災が、一年後の今、ローカルなものになってしまおうとしているのは残念です。

ところで、「自分は？」自分のことで精一杯だったようにも思います。多くのボランティアの活躍も遠いものでした。そして、「阪神大震災に学ぶ」の本学のシンポジウムに参加したとき、何もしなかった自分を大変恥かしく感じました。しかし、オリックスの選手が「こんな時に野球か？」と非難されながらも、野球しかできないと割り切って頑張ったように、職務に精励するのも選択と開き直ったりもしました。

今年の年賀状はひと味違いました。阪神間の友人たちは幸いみな健在。ボランティア活動に従事している旨などが力強く記されていたものもありました。これならばたぶん、亀裂の時間は逐次修復されて、再び活発な阪神が甦るだろうと確信することができました。

この一年を振り返って

中央検査部技術員 石崎 幸恵

あの朝真っ暗な中で大きな揺れに目を覚ましてみたものの、家族の無事以外のことはなにもわからず寒さと余震の恐ろしさで一步も動けませんでした。明るくなって信じられない光景をまのあたりにしてこんな事があり得るのかと思いました。どれほどの力をどの様にかければここまでめっちゃめちゃに出来るのでしょうか。

家の倒壊だけはまぬがれましたが、不安のため避難所に泊まりました。けれど私には2日が限界でした。ビニールシートに包まれた家での水道・ガスのない生活では、給水車で水汲みや2時間待ちの銭湯なども経験させられました。通いなれた三宮は風景が一変し迷路の様でした。あたりまえと信じていた毎日は消えていました。

交通手段の復旧は早く、3月には阪急電車とJRを乗り継いで職場にも通えるようになりました。もちろんマスク・リュック・運動靴の震災ルックです。便利になった反面、被災地とそうでない地域との違いに戸惑いをおぼえ、地震は夢だったのではないかという錯覚に陥ることもありました。でも多くのボランティアの人達がいるなかで何も出来ないことに焦りを感じていた私には仕事のできる喜びがありました。震災前と同様の生活に戻っていくに従い地震の記憶は薄れてきています。

再び1月17日がやってきました。テレビの報道があの日を思い出させます。報道はいろんな事を伝えてくれます。記憶をよみがえらせることもできます。しかし決して体験ではないのです。被災にあつて初めて奥尻や普賢岳の人々の気持ちが身近になりました。次に何か起きた時は(起きないことを願いますが)進んでお手伝いをしようと思います。最後に多くの人達の励ましや友情に感謝したいと思います。生きていて良かったです。

同和教育に関する特別講義

同和教育に関する特別講義が下記のとおり開催されました。

1. 日時 平成7年11月15日(水)
午後2時40分～4時10分
1. 場所 臨床第一講堂
1. 演題 『医療と人権』
…患者の自己決定権をめぐる…
1. 講師 龍谷大学法学部
平野 武 教授
(本学倫理委員会委員)



平成7年度実験動物慰霊祭

本年度の実験動物慰霊祭が関係者および教職員約100名の参列のもと、下記のとおり執り行われました。

1. 日時 平成7年12月9日(土)
午後1時～
1. 場所 講義実習棟・第1講義室



年賀交歓会の開催

恒例の年賀交歓会が1月4日(木)午後1時より第9会議室において開催された。この日は理事長、学長をはじめとして本学関係者100名余の出席があり、和やかな雰囲気の中、新しい年の抱負に花を咲かせながらの談笑が続いた。

主要会議とその主な議題

平成7年11月2日から平成8年2月1日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

【理事会】

(11月14日)

1. 役員一部選任の件
2. 学校法人大阪医科大学給与規則中一部改正の件

(11月23日)

1. 役員及び評議員の選任に係る特例の件
2. 役員一部選任の件

(10130日)

—其の1—

1. 平成8年度予算編成に関する件
2. 平成7年度上半期収支状況報告

—其の2—

1. 臨時理事会の議長指名について

(12月1日)

1. 理事長選任の件
2. 評議員一部選任の件(寄付行為第14条第1項第4号評議員)

(12月12日)

1. 監事一部選任の件
2. 日本私学振興財団借入金の件

3. 役員の退任慰労金支給について
(1月23日)

1. 役員並びに評議員等の退任慰労金暫定支給基準中一部改正の件
2. 学校法人大阪医科大学退職金規程中一部改正の件

〔評議員会〕

(11月30日)

1. 平成8年度予算編成に関する件
2. 平成7年度上半期収支状況報告
3. 役員一部選任の件

(12月20日)

1. 監事一部選任の件

〔教授会〕

(11月8日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用)
2. 教授選考に関する件(衛生学・公衆衛生学講座、耳鼻咽喉科学講座、泌尿器科学講座)
3. 平成7年度日本育英会奨学生の追加推薦に関する件

(11月22日)

1. 教授選考に関する件(生理学第二講座、泌尿器科学講座)

(12月6日)

1. 人事に関する件(学内講師任用他)
2. 教授選考に関する件(生理学第二講座、泌尿器科学講座、小児科学講座、整形外科学講座)
3. 平成7年度奨学生(本学・仁泉会)の推薦に関する件

(12月20日)

1. 人事に関する件(学内講師任用他)
2. 教授選考に関する件(生理学第二講座、耳鼻咽喉科学講座、衛生学・公衆衛生学講座、泌尿器科学講座)

3. 附属病院長選挙に関する件
4. 第4学年進級可否判定に関する件
(1月9日)

1. 人事に関する件(助教授の任用)
2. 教授選考に関する件(耳鼻咽喉科学講座)
3. 附属病院長選挙に関する件
4. 第2学年進級可否判定に関する件

(1月24日)

1. 人事に関する件(助教授の任用)

2. 教授選考に関する件(小児科学、耳鼻咽喉科学、泌尿器科学)

3. 附属病院長選挙に関する件
4. 診療助教授制の設置に関する件
5. 平成8年度入学試験に関する件

〔大学院医学研究科委員会〕

(11月8日)

1. 退学願出に関する件
(11月22日)

1. 学位論文審査結果に基づく合(可)否決定に関する件

(1月9日)

1. 学位論文提出のための語学試験結果に関する件

(1月24日)

1. 平成8年度大学院入学試験について

主要日程表

(平成8年2月1日～平成8年4月30日)

2月1日から平成8年4月30日までの学内における主要な予定は次のとおりです。

- 2月1日(木) 大学院医学研究科入学試験(語学試験他)
- 2日(金) 同上(専攻科目試験)
- 6日(火) 医学部入学願書受付締切(消印有効)
- 7日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
- 13日(火) 理事会
- 20日(火) 医学部入学試験(於: 関西大学)
- 21日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
- 28日(水) 最終講義(高橋耳鼻咽喉科学教授)
〃 (林中央検査部診療教授)
- 3月1日(金) 教授会、大学院医学研究科委員会
医学部入学試験(学科試験)合格者発表
- 2日(土) 大学院医学研究科入学試験合格者発表
- 3日(日) 看護婦国家試験
- 4日(月) 第3学年春期休業

- 3月6日(水) 最終講義(吉田衛生学・公衆衛生学教授)
 * (小野村整形外科学教授)
- 7日(木) 医学部入学試験(学科試験)合格者面接・小論文・身体検査
- 8日(金) 教授会、大学院医学研究科委員会医学部入学試験合格者発表
 看護専門学校卒業式
- 9日(土) 第4学年春期休業
- 12日(火) 理事会
- 13日(水) 最終講義(美濃小児科学教授)
- 14日(木) 第2学年春期休業
- 15日(金) 医学部入学手続締切
- 16日(土) ~17日(日) 第90回医師国家試験
- 18日(月) 第5学年春期休業
- 19日(火) 看護専門学校授業終了
- 25日(月) 医学部卒業証書・学位記授与式
- 27日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
 評議員会

- 4月8日(月) 第6学年臨床実習開始
- 9日(火) 理事会

- 4月9日(火) 看護専門学校入学式
 * 教授会、大学院医学研究科委員会
- 10日(水) 入学宣誓式(医学部、大学院医学研究科)
- 11日(木) ~14日(日) 第1学年オリエンテーション
 第2・3・4・5学年授業開始
- 16日(火) 看護婦国家試験発表
- 19日(金) 第90回医師国家試験発表
- 24日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
- 26日(金) 臨床研修医オリエンテーション

お詫びと訂正

前回発行の26号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P8 養原 一良 → 養原 靖一良

大阪医科大学俳句会(十/十一/十二月)

- 絵に描けばいびきは草に似たるかな
 務人
- 道庁はレンガ造りやななかまど
 雄介
- 家計簿はパソコンで打ちきりぎりす
 一成
- 俳聖の秋の夜長のいびきの図
 興三
- 蓑虫や不思議な負はなかりけり
 香代子
- 右膝にお化けが棲むよ冷に泣く
 妙子
- 上野城田がくこはい二本差
 筆子
- 伊賀銀座小菊で飾る芭蕉の句
 孝江
- 天高し診察室は 一対一
 弘
- 地下道に虫のすだくや終電車
 真紀
- 金木犀人それぞれに仕事持ち
 和美
- 一人あておはぎの届く秋祭
 忠男
- 疑問符を箸で上げ下げ三ヶ日
 隆司



ほどよい雪は、言葉どおり万物に“雪化粧”をほどこし、風物の詩情を増幅する。本館の横に咲いた“さざんか”が一日、雪に飾られ、そんな風情をかもし出した。濃紅の花、濃緑の葉が白に映える姿は、北国に咲くゆきつばきを思わせる。その凜然としたところはさすが冬の代表花らしい。

大阪医科大学学報 第27号

発行年月日 平成8年2月1日

発行 学校法人 大阪医科大学

発行責任者 事務局長 多田 數義

編集・発行 総務部庶務課